



瀬谷小だより

7月号

令和3年6月30日

横浜市立瀬谷小学校

「未来を切り拓け」

副校長 新川 浩一

薄曇りの空と、まとわりつくような空気に包まれた日が続いています。稀に日が差すことがあると、子ども達の表情もどこか元気で明るくなり、太陽のありがたみがしみじみと感じられます。

先月21日、22日の2日間、地域別分散実施ではございましたが、授業参観を行うことができました。久しぶりの授業公開に、教職員一同本当に嬉しく、また身の引き締まるような心地よい緊張感をもつことができました。しかし何と云っても、授業参観を心待ちにし、その日一番嬉しかったのは子ども達だったと思います。後ろや横をちらちら見ながら、いつも以上に張り切る姿がとても輝いていました。ご多用のところ、多くの皆様にご来校いただきましたこと、あらためて御礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、6月23日（水）によこはま子ども国際平和スピーチコンテスト瀬谷区審査会が瀬谷公会堂で行われ、本校からは6年の鈴木莉奈さんが学校代表として参加してくれました。これに先立ち、学校では6月21日（月）の朝会の時間に、6年生各クラス代表者のスピーチを全校で聴く機会がありました。私は1年生のクラスでその様子を見ていました。1年生にとってはとても難しい内容であったにも関わらず、何とか代表の6年生の言葉を理解しようと目を大きくしてテレビを見つめていました。

スピーチの内容、そして伝え方も「さすがは6年生」と感心してしまいました。大気汚染と人々の暮らしへの影響について、自らの体験に照らし合わせながら訴える1組の代表者。電力供給の実態とサービスを選択する側の考え方を例に、地球温暖化防止へのヒントを見つけようとする2組の代表者。そして、身近で日常的な暮らしに存在する食品ロスという社会問題を、消費者の立場で見つめ直した3組の代表者。世界的なSDG's（持続可能な開発目標）への取組がなにかと話題になる今般、時折「将来子ども達は大変な世界・社会を生きていくのか」と考えてしまうこともあります、一方で、社会がどのように変化しても、自律的に生き主体的に判断し、多様な人々と協働して変化を前向きに受け止め、未来に向けて豊かな創造性と行動力を発揮する。きっと瀬谷っ子たちはそのような存在になるのだろうと、今回のスピーチを聞き頼もしく感じました。そのために学校ができることを考え、しっかりと支えていきたいと思えます。

